



紫芳庭球会報 最新号

髭野……気にはすることは無い。勝負というのはいそいで勝負なのだから。

中野……継続してチーム揃えるのは並大抵のことではないですよ。

亀山……団体戦はそんなところですが個人戦は髭野会長が孤軍奮闘で特に壮年の全日本優勝は素晴らしいですね。

髭野……35歳以上の成年で東京、関東では連続優勝し、全日本は45歳以上で初めて優勝しました。当時は東西対抗というのが格式高い大会で、5組ずつ選手が出場しての殲滅戦です。それには4年連続出場し殊勲ももらいました。国体も何回か出場し、総合優勝も経験しました。

亀山……85歳も狙っていただければ。

髭野……いや、超壮年(60歳以上)東西対抗15回出場権を頂いたので、もういいでしょう。

田坂……永井を偲んで、奥さんに寄贈して頂いた永井杯を山中湖の合宿で取り合っている。

亀山……ちなみに納会の時にやるのが浦野杯。会報をまとめた「紫芳庭球会20年の歩み」を髭野さんが中心となって昭和62年に刊行した。その後の紫芳庭球会報も菊地さんが全部保存している。

菊地……OB会では月3回の練習会のほか、ずっと続いている行事が、冬の浦野杯・納会と春の歓迎会、それに夏の合宿と元日の打ち初めもあります。

中野……そろそろ現役への応援メッセージなどありましたらお願いします。

髭野……高校生の時代が一番いい時期だから大学生になって何やるかというのを高校生の時に考えとかなきゃな。それで浪人したっていいというか、そういう時間を作ってやる方がいいんじゃないかと俺は思う。

菊地……短くても長くやるにしても、何かに熱中して思いきりやることはすごい財産になるので、何かを見つけて頑張ってください。

亀山……クラブを通じて先輩後輩の繋がりがだけでなく、同期の繋がりを皆さんやっている。これもいろいろな面で財産となる。

中野……クラブで得た経験は必ず社会に出たときに活きますよ。またそう思えるようなクラブ生活を過ごしてもらいたいです。

菊地……紫芳庭球会の良いところは、私も子育て等でしばらく離れていましたけれど老若男女がいつでも参加できるということ。

秋山……卒業したら大学生活が忙しいと思いますが、年に1回でもぜひ参加して一緒に楽しんでほしい。

中野……ソフトテニス部が長い歴史を持ち続けるのは何故か、この座談会での先輩諸兄のお話から現役の方々何かが感じ取って頂けたら開催した意義があるというものです。とりとめなくなりました。まいりましたが本日はありがとうございました。

